

学校ぎらいの子供の例を中心に
現代っ子の心の問題をさぐる!

文部省選定

ぼく学校はぎらい

—ひよわな心—



■企画

全国視聴覚教育連盟

■16ミリ・カラー

■30分・180,000円

■製作意図

最近社会の様々なひずみを直接間接にうけることによって、自殺、登校拒否、家庭内暴力と、子供たちの心の病気が頻発している。そうした極端な行為に走らないまでも、現代っ子の心は一般的に抵抗性に乏しく、ひ弱になったといわれている。なぜだろうか。

この映画では、ある小学3年生の登校拒否の実例を再現しながら、その原因をさぐっていく。子供の心の発達に最も大きな影響を与える生育環境、中でも特に重要な親子関係のあり方にスポットを当ててみると、登校拒否を起さないまでも、現代の子供たちが夫々に共通の問題にゆき当たっているのではないかと気づく。

そこで、この映画は現代の子育てについて父親、母親夫々の立場に相應する役割りが厳として存在することを確認し、わが子の親への全面的依存から脱して、段階的に自立性を獲得していくよう配慮し、その環境づくりに心がけるようすすめる。

■対象／一般成人 特に母親、父親

■用途／家庭教育 一少年期

■製作スタッフ

指導……東京都立教育研究所相談部長

小泉英二

製作……福間順子

脚本・演出……田中 徹

撮影……堀 澄男

照明……本橋俊男

編集・記録……吉田栄子

■この映画の利用のしかた

東京都立教育研究所相談部長 小泉英二

この映画は、主として登校拒否の事例を中心にしていますが、そのねらいは、ひろく、子どもの心の成長をむしばむもの、阻害する要因を問題にしようとしています。

見終わってから、次のような点について討議したり、自分の場合と比較して考えてみると一層、問題点が明確になるでしょう。

①この事例の母親は、なぜ子どもに対して過保護な育てかたをしてしまったのか。

②父親が母親にまかせっきりになったのは、どうしてか。それぞれの態度の反省すべきことは何か。

③一般に過保護はよくないとわかっていながら、実際にはそうなりがちなのはなぜか。子どもにとって必要な保護と過剰な保護との区別は?

④子ども同士の遊びの場と機会を確保してやるために、個人的にあるいは地域社会で何をどうしてやれるかを考えよう。

現代の親は、ともすると、子どもに知識技能を授けることのみを目をうばわれ、性格形成という土台作りを忘れがちです。健全な身体と心の土台が弱ければ、知識技能も崩れやすいものであることをもう一度確認したいものです。

■この映画を見て

練馬区立南が丘小学校教諭 菅野静二

最近あまりにも子どもの問題が多くなってきたので、いろいろ原因を研究していくと、これは決して特別な子の特別な現象ではないのだということが明らかになってきました。数年前までは「それはよその子のことで、うちの子にかぎって……」といった楽観的な見方が大勢をしめていたのですが、そんな言葉はもう通用しません。非行・自殺・登校拒否等の問題は、大げさでなくどの子も起こしうる要素があるのです。そしてその大きな原因として、家庭や親の誤った子どもの見方、育て方が子どもの心を不安に落し、圧迫し、ゆがませているということがあげられています。

この映画は、親と子の心の問題をとりあげて考えてみる時、大変参考にできると思います。

私の担任する小学5年生の父母会でもこの映画を見て話し合ってみると、次のような意見が出されました。

★映画を見てまったくあの通りだったと反省。この頃やと少し自立してきたので、その芽を育てていきたい。

★いろいろ考えさせられ、過保護、干渉など気をつけたいと思うが、どの程度つき離すかが問題で難しい。

★親も、もっと勉強するのを感じた。

★家庭での父親の役割とは? この映画を父親にも見せたい。

★子供の心の問題は、家の狭さなど、経済的・社会的な問題にも大きくかわっているのではないだろうか。

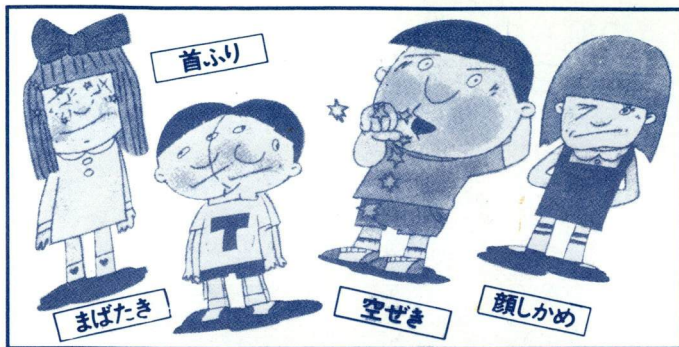
製作

株式会社

桜映画社

配給

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666



子供の心の注意信号——まばたき、空ぜき顔しかめなどを繰り返すチック。おねしょやどもり、或いは集団生活になじめないでする乱暴やいじわるな行動。これらは親の過保護や絶え間ない干渉に対する、子どものストレスや欲求不満のはけ口となっていることがある。

■利用方法

- 学級講座～家庭教育学級、母親講座、婦人学級、成人講座、父親教室などの学習テーマ「登校拒否の原因をさぐる」「登校拒否と家庭のしつけ」「登校拒否と親の立場とその役割」等の教材。
- 集会学習～PTA（小学校）や婦人団体の集会時、父親（母親）授業参観日、地域における教育懇談会などに上映して、「登校拒否はなぜ起きるか」「登校拒否や自殺、家庭内暴力の要因をさぐる」「子供の心の病気と家庭のしつけ」等のテーマで、〈バス討議〉（6・6討議）によって参加者個々の見識を高めるに役立てる。尚、社会教育指導者・関係者、社会教育団体代表、自主学習グループリーダー（又は代表）の学習研修会に利用して、映画利用学習の普及に努める。

■あらすじ

最近、教育相談所に子供の心の問題について相談に来る人が増えている。

小学3年の哲也君をつれて来た母親もその一人である。哲也君は3年になって間もなく学校に行くのをいやがりだして、毎朝お腹がいたいといい、時には本当に吐いたりして学校を休む。そんな事がもう1ヶ月余りも続いている。お医者にもみせても病気ではないという。困った母親が父親に相談しても、仕事が忙しいからどとり合ってくれない。そこで、相談所の門をたたいたわけである。

このような登校拒否は、体の病気ではなく心の病気だという。はたからみるとごくささいなことがきっかけになって起きるのであるが、本当の原因は、そんなことに耐え切れない心の弱さにあって、そうした心に育てた生育環境、特に家庭における親子関係に問題があると考えられるといわれた。

哲也君の場合の動機と原因をさぐるため、週一回の面接がはじまった。

母親の語る哲也君は、友だちと遊ぶより一人遊びが好きで、おとなしい性質である。学校の時間割は毎晩母親が点検してやる、朝も母親が起こしてくれて起きる。従って学校へ忘れ物をしたり、遅刻したりはない。

哲也君は担当のお姉さんにプレイルームで遊んでもらって大分うちとけてきた。話の中で体操着を忘れて先生に叱られたことを気にしていることがわかった。哲也君は父親にも叱られた経験がない。父親との接触が少ないこともわかる。

父親との面接で、父親が哲也君に対して余り関心を持っていないようにもみうけられた。仕事一点ばりで、家事も育児も母親まかせで今日迄来ている。

幼児時代に哲也君にチック症状があったことが、母親の話でわかった。チックとはまばたきや指しゃぶり、空ぜきが習慣化するもので、ストレスや欲求不満のはけ口として現われると考えられている。幼児期は体の成長には勿論、心の発達にも重要な時期である。

面接が続いている中で、哲也君の母親は、その心の成長をはばんでいたものが何であったかに気づき始めていた。父親もまた無関心を改めて、心の通い合った親子関係、父親・母親双方の立場における役割をはたすよう心がけるようになった。

こうした親の態度の変化が哲也君の心の中にも少しずつ変化を起して、徐々に安定した方向に移っていくことであろう。

■話し合いの要点

次のような点を話し合いのポイントにおさえて、その深まりをはかろう。

- (1) 教育相談所というのは何か。
- (2) 登校拒否児といわれる哲也の状況はどんな具合か。
- (3) 哲也がおなかのいたいと駄々をこねている時、母親（トシエ）「お父さん！ 哲也に何とかいってくださいな……」といっているが、あなただったらどうしたろうか。
- (4) 父親（清）「そんなこといったって、僕は忙しいんだよ……」よく聞くことばかも知れないが、こうした時母親はどう思うか。
- (5) トシエ「哲ちゃん！ サアご飯をたべて学校へ行ってちょうだい……」こういう時の母親の気持はどうだろうか。
- (6) 哲也が朝になるとおなかのいたいと学校を休む、そんなことの繰返しが毎朝続くという状態で母親のしつけとしてどこが問題だったろうか。
- (7) 登校拒否はどのような状況の時に現われるか。又その直接の誘因としてはどんなことが考えられるか。その起因として考えられることは何か。そして、そうした弱性格はどうして形成されるのか。結局登校拒否の根源は何か。
- (8) 家での一人遊びは安心だからという母親の考えについてどう思うか。
- (9) 小学校3年生の哲也に対して、学校の時間割は点検してやる、朝は起きる迄起こしてやる、着替えもさせてやる、この母親の世話振りをどう思うか。
- (10) 佐藤セラピストと哲也との会話の中で、体操着を僕忘れたんじゃない、お母さんがそろえる時忘れたんだといっているが、この考え方はどうして出てきたか。どこに問題があるか。
- (11) 相談室で父親がいつている、「家族には不自由をさせたくない、私が一生懸命外で働く、家の中のことは家内にまかせる」は、家庭における父親の役割をはたしているか。
- (12) 「チック」というのは何か。現象としてはどんな例があるか。親としてはこうした現象をどうみるべきか。
- (13) 幼児期は体の成長と共に心の発達にとっても大切な時期というのはどういうことか。
- (14) 遊園地での母親たちの言動を通じて感じることは何か。それはどうしてそういえるのか。
- (15) 現代っ子の遊びのマイナスは何か。
- (16) 哲也の心の成長を阻んでいたのは結局何だったのか。
- (17) 哲也の登校拒否の原因を、家庭環境、父と母とにおける問題としてみるとどういったらよいか。
- (18) 哲也を再起させ自立への道を歩ませるには、この両親は今後どうしたらよからうか。
- (19) 子供のしつけ教育で集団遊びや労働体験が重視されるのはなぜだろうか。
- (20) 哲也の例からみて、わが家の子育てはどういう考えのもとで、どうすすめていったらよいか。